

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 番町界隈の社寺を巡る

講師 藤井 雄三

(高松短期大学講師)

平成26年9月28日(日)

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

## 1 高松市埋蔵文化財センター

高松市埋蔵文化財センターは、円座町の文化財課円座整理事務所の老朽化に伴い、平成二十四年八月一日に複合施設である「四番丁スクエア」内にオープンしました。

埋蔵文化財センターでは、地下に埋もれた文化財（埋蔵文化財）にかかわる調査研究や、発掘した出土品、その他資料の整理・保管や展示、情報提供、教育普及を行うことを業務としています。

全国では埋蔵文化財センターが郊外に整備されるのに対し、高松市埋蔵文化財センターは市役所庁舎に隣接した中心市街地に立地し、気軽に足を運べ、親しめる埋蔵文化財に関する拠点施設となっています。



高松市埋蔵文化財センター

## 2 大本寺跡

だいほんじあと

大本寺は、ほっけしゆう法華宗ほんもんりゆう（本門流）、しゆうみゆうざん衆妙山大本寺といひます。

寺伝によると、寛永五年（一六二八）頃、高松藩（生駒家）の客臣、西嶋八兵衛が、任期みちて伊勢藩の津へ引き揚げるとき、大本寺開基の自乾院日省上人が、その邸跡（高松市三番丁）をもらつて、寛永十三年（一六三六）、大本寺を創建したといわれています。空襲で焼失した寺門は、初代高松藩主・松平頼重公の御殿の門（四脚門）を移したものだつたそうです。そのような関係でこの寺は、西嶋八兵衛が延宝八年（一六八〇）三月二十日、伊賀上野（三重県上野市）で死去したのち、しやくちけんこじ釈智賢居士（八兵衛の法名）の、永代位牌所となりました。

初代高松市長赤松渡わたるや菊池寛は、大本寺の信徒であつたと言われ、明治二十三年（一八九〇）四月十日には、初めての高松市議会がこの大本寺で開かれており、高松市政の始まりの貴重な場所でした。

寺は戦災で焼け、その後、都市計画の実施で現在の築地町に移転し、寺のあつた場所は四番丁小学校となりました。その小学校も平成二十二年（二〇一〇）に新番丁小学校になり、現在は高松市埋蔵文化財センターなどが置かれています。

### 3 法泉寺

禅宗の臨済宗京都妙心寺末寺で山号は龍松山といえます。本尊は釈迦如来です。

寺伝によると、天正十五年（一五八七）

八月、生駒親正が讃岐国守となったとき、

秀吉が帰依している大川長老が今讃岐に

いると聞いた親正は、すぐさま部下に探

させたところ、志度の海蔵院にいること

がわかったので、早速面会しました。親

正は鶴足郡（宇多津）へ寺を建てて大川

長老を住まわせ、寺を生駒家の菩提所と

しました。これが法泉寺の始まりです。

高松城主となった親正の子、一正によ

つて、法泉寺は高松三番丁に移されまし

た。



法泉寺

## ※ 生駒廟

釈迦像の北側、奥まった場所に小さな半間四方の生駒廟と呼ばれる堂があります。屋根は本瓦葺の宝形造りで、間口一間（約一・八一メートル）、奥行一間の小堂です。軒は一重繁垂木、軸部は面取角柱、組物は和様三ツ斗、四方の頭と腰に長押をうち、正面には長押間に両開き棧唐戸をつり込み、頭貫の上には正面の墓股に竹と虎の彫刻で、桃山時代の特色が出ています。

内部には生駒家二代・生駒一正（一五五五〜一六一〇）、三代・生駒正俊（一五八六〜一六二一）の五輪塔の墓が安置されています。五輪塔は小さなもので、それぞれ戒名が墨書されています。なお、法泉寺の寺名は、生駒正俊の戒名に由来します。

高松空襲によって法泉寺は打撃を受け、寺域も戦後の区画整理等により大きく変化しました。生駒廟・釈迦像ともに移転しており、西側道路の歩道に建てられた旧位置を示す石碑が、戦前の状況を伝えるに過ぎません。

## ※ 銅鐘（県指定有形文化財）

この銅鐘は、総高八十七センチ、口径五十三センチ、厚さ五・五センチ、乳は四段ちち四列の小振りの銅鐘です。もとは備前国金岡庄（岡山県岡山市西大寺）窪八幡にあつ

たもので、銘が刻まれています。銘には「鎌倉時代の元徳二年（一三三〇）の青陽すなわち正月に、神主藤井弘清と沙弥尼道証の子孫が願主となり、吉岡庄（金岡庄の北方）の庄園の管理人である政所が合力し、諸方十方の庶民が檀那だんなとなつて銅類物をそえ、大工（鑄物師）宗連むねつら以下がこれを鑄た」とあります。

文禄の役（一五九二）に、生駒親正・一正の父子が朝鮮に出陣した時、この鐘を陣鐘として持参し、帰国後、生駒家の菩提寺である法泉寺へ寄進したと伝えられています。

市内では、重要文化財に指定されている国分寺銅鐘、屋島寺梵鐘について古いものです。



銅鐘

## 4 日和山神社

ひよりやま

明暦二年（一六五六）高松藩がお船蔵を築いたときに掘り起こした土砂を盛り上げた丘に、航海の守護神と言われる金毘羅大権現（大物主命）おおもものぬしのみことを勧請して祀ったもので、俗に「お船蔵のこんぴらさん」「日和山のこんぴらさん」などと言われて、庶民に親しまれました。

日和山とは、この傍らに藩の日和見番所があったからで、この番所は、藩主が参勤交代で江戸に出府する際、家来が当社に遣わされ航海安全を祈願する一方、その出航前後にはここから刻々城内へ海の模様が報告されたと言われています。当社は藩主の社であったので、庶民は参



日和山神社

拝を許されませんでした。八代藩主松平頼儀よりのりの文化年間（一八〇四〜一八一八）に、初めて庶民の参拝が許されました。その後、幾度か移転を経て現在地に鎮座しています。境内には金毘羅燈籠があり、「文化三丙寅年九月吉日」と刻まれています。

## 5 泉立寺

日蓮宗久遠寺（山梨県身延山）派、高照山中道院。本尊は釈迦如来。

承応年間（一六五二〜五五）高松藩付の家老で、日蓮信者である肥田ひだいずみのかみまさかつ和泉守政勝が、この地にあった法華宗妙要寺を造りかえて、泉立寺に改めたと言われています。肥田政勝は、松平頼重に付き従って高松に入った重臣です。

その後、幕末の弘化四年（一八四七）にも造りかえられています。



泉立寺

## 6 向山 周慶（一七四六〜一八一九）

さきやま しゅうけい

向山周慶は、大内郡湊村（現在の白鳥町湊）で庄屋を務める向山政永の三男として生まれました。名は政章と言ひ、第五代高松領主松平頼恭よしたかの時代に、藩医池田玄丈について医術を学びました。

十六歳で師の玄丈が藩命で続いていた砂糖精製の研究を託され、以来三十年に及ぶ苦難の歳月を経て、寛政二年（一七九〇）初めて白糖の精製に成功し、大坂市場で讃岐の和三盆糖として、その名声を高めました。この成功の陰には、周慶が危難を救った医学生や四国遍路の関良助という、当時砂糖生産の先進地だった薩摩国（現在の鹿児島県）出身の人物がいて、この二人の協力が成功の大きなカギとなりました。なお、周慶と良助を祀った向良神社こうらが、周慶の生地こうらの白鳥町と、高松市松島町に鎮座しています。



向山周慶の墓

## 7 弘憲寺

真言宗高野山派、利剣山遍照光院と  
いいます。本尊は不動明王（国指定重  
要文化財）です。

天正十五年（一五八七）讃岐の国守  
となった生駒親正は、鶺鴒<sup>うたづ</sup>足郡（宇多津）  
にあった廃寺となっていた法勲寺の本  
尊、靈宝を近くにある島田寺に移し再  
興しました。

慶長八年（一六〇三）七十八歳の高  
齢で高松城内で死去した親正の菩提を  
弔うため、子の一正は、法勲寺を高松  
に移し、父の菩提を弔うため親正の墓  
を建てるとともに、生駒親正の法名（海  
依弘憲大禅定門）から弘憲寺と改称さ  
せました。



弘憲寺

弘憲寺には本尊の不動明王だけでなく多くの寺宝が残されており、鑄銅製で鍍金を加えた金剛盤など密教法具一式（国指定重要文化財）は東京国立博物館で保管されています。二代目の住職である宥遍上人は高野山浄菩提院の住職でしたが、嵯峨大覚寺法親王が高野山に遊学した時、宥遍を師と仰ぎました。これを縁として寛永十三年（一六三六）に上人号を授かりました。法親王は後水尾天皇の皇子だったことから、宥遍上人は天皇から七條袈裟を賜っています。寛文五年（一六六五）大覚寺法親王の命により、大覚寺の末寺となり、弘憲寺は讃岐の触頭ふれがしらとも呼ばれました。宥遍上人は怪力でも知られており、本堂の前にある大きな石は、怪力の噂を聞いた魔物が力を試そうと投げ込んだ石を、上人が瞬時に投げ返したものとされています。

なお、弘憲寺は慶応四年（一八六八）鳥羽伏見の戦いで朝敵事件の責任を負った二家老のうち、小河又右衛門久成が切腹した場所でもあります。

### 《触頭ふれがしら》

江戸時代、寺院・神社のなかから選定され、寺社奉行から出る命令の伝達や、寺社から出る訴訟の取次ぎにあたった神社や寺院のこと。

《二家老》 小夫兵庫正容と小河又右衛門久成

おぶひょうじまさしず  
小夫兵庫正容（四十三歳）

文久三年（一八六三）家老となり、鳥羽伏見の戦いの際、官軍に発砲し朝敵となりました。朝敵事件の責任をとり、正覚寺で切腹し藩難に殉じました。

おごうまたえもんひさしげ  
小河又右衛門久成（二十七歳）

文・武・書の道を治め、慶応二年（一八六六）家老となりました。小夫兵庫正容とともに朝敵事件の責任をとり、檀那寺であった弘憲寺で切腹しました。

## ※ 讚留靈王神社の祠

弘憲寺の南西の隅に讚留靈王神社の祠があります。元は法勲寺にありました。  
《讚留靈王の伝説》

景行天皇の頃、土佐の海に大魚が現れて、船や人を襲い暴れていました。それを知った景行天皇は日本武尊やまとたけるのみことの子、靈子れいし（武彀王・タケカイコオウ）に悪魚退治を命じます。悪魚退治を命じられた王はさっそく土佐に向かいますが、大魚は讚岐の国へ移動していました。大魚を追いかけて讚岐にやってきた王は、船と兵士を集め大魚との

戦に備えます。

いよいよ戦は始まりましたが、瀬戸内海を自在に泳ぎ回る大魚に、王の乗った軍船は飲み込まれてしまいました。王は何とか大魚の腹の中から脱出する方法を考え、軍船に火をつけることを思い付きました。火に焼かれてもがき苦しむ大魚の腹を切り裂いて、脱出し大魚を退治します。

景行天皇に大魚退治を認められた王は、讃岐の土地を与えられ、城山に館を構え、讃留霊王（讃岐に留まる霊王）となります。

讃留霊王は、晩年新しく館を建てる場所を探し、城山から矢を放ちました。矢が突きたったのは、古代寺院の法勲寺と伝えられています。その後、讃留霊王は百二十四歳まで長生きし、その亡骸は現讃留霊王神社境内（丸亀市飯山町）にある讃留霊王古墳に葬られたと言われています。



讃留霊王神社の祠

## ※ 生駒親正夫妻墓所（県指定史跡）

弘憲寺本堂の西隣にある境内墓地に、人目をひく大型の五輪塔があります。これが、高松城主生駒家初代の親正夫妻の墓塔です。

墓塔は、角礫凝灰岩で製した五輪塔で、向かって右が親正の墓で、総高三・〇九メートル、左の夫人の墓も形状は似ていますが総高二・九メートル。どちらも地輪（基礎）の前面に、法名・慶長十四年（一六〇九）に嗣子一正建立という刻銘があったと伝えられています。今は風化して、剥落のため消滅しています。

関ヶ原の戦いで敗れた生駒親正は、高野山に登り、髪をそり落とし仏門に入っ  
てひたすら罪を謝し、また子一正の功も



生駒親正夫妻墓所

あったので、徳川家から許されて高松城に帰り、慶長八年（一六〇三）二月十三日没しました。綾歌郡飯山町にあった旧法勲寺を子一正がここに移築して弘憲寺としました。初代高松城主の墓所として、意義ある史跡です。

## 8 若一王子神社

祭神は菟道雅郎子命。  
うじのわきいらつこのみこと

創祀は建治元年（一二七五）、紀州の住人

で新羅三郎義光

しんらさぶろうよしみつ

（源義光）の子孫である野

原郷の地頭 岡田丹後守宗重が、紀州熊野の

若一王子社の分霊をむかえ、ここに創祀し

ました。文安二年（一四四五）、岡田丹後守

清家が社殿を再建しました。この時、浜ノ

丁の蓮華寺が創建され、社僧となりました。

その後も、岡田氏の子孫が江戸初期まで

相次いでおまつりしていたといえます。岡

田氏は、江戸時代に高島氏を名乗ったため、



若一王子神社

この周辺は「高島町」とも言われました。

昭和二十年の戦災で社殿が炎上し、今の社殿は、戦後の再建です。

## 9 愛宕神社

江戸時代の城下絵図によると糸撚いとより愛宕社とあり、北側が海となっており、そこには糸浜と記されています。

建治元年（一二七五）野原郷の西浜城主岡田丹後守清高によって、弓箭の神として創祀されました。その後、糸浜の松林中の景勝地に鎮座する住吉神社の傍らに遷され、鎮火、尚武の神として近在の人々に敬われたと伝えられています。

文安年間（一四四四～四九）岡田丹後守宗高によって神域が拡張され、元亀元年（一五七〇）には社殿が修築されたと



愛宕神社

いわれています。

生駒氏は当社を祈願所とするとともに、寛永十六年（一六三九）には社領を寄進しました。高松松平家初代・頼重も厚く崇敬したそうです。

讃州府誌に「岡田丹後源清高居<sup>二</sup>香川郡坂田郷<sup>一</sup>弘安中建<sup>二</sup>笠原西浜愛宕社<sup>一</sup>修<sup>二</sup>復王子権現<sup>一</sup>／弘安年間（一二七八〜八八）」とあって、上記との年代等は合致しないものの、東隣の若一王子神社との関係を示唆しています。

愛宕神社の境内末社として住吉神社があります。もともと住吉神社の鎮座していた場所に愛宕神社が移ってきたとされています。住吉神社そのものは城下町の北西にあり、潮留の宮として藩主の崇敬が篤かったといわれています。

なお、住吉神社は表筒男命、うわつのおのみこと中筒男命、なかつのおのみこと

そこつのおのみこと底筒男命以外に大物主命、崇徳天皇、素盞之命を祭神としています。これは昭和四年（一九二九）に境内末社として祀られていた八坂神社と



愛宕神社のナギの木

琴平神社を合祀したためです。

## 10 蓮華寺

真言宗御室派。本尊は聖観世音菩薩です。

蓮華寺は香西氏配下の武将であった岡田氏の城館跡と伝えられています。高松城築城後は、浜ノ丁に移転してきた無量寿院の塔頭たっちゅうになりました。境内には明和七年（一七七〇）の一石一字法華経塔や、戦前の実業家中野武宮の墓があります。

### ※ 中野武宮なかの たけなか（一八四八〜一九一八）

中野武宮は、高松市鉄砲町（現在の高松市扇町）高松藩勘定奉行・中野次郎兵衛武憲の子として生まれました。厳格な父の教育を受け、二十三歳で県役人、二十八歳で上京して内務省（現在の総務省）役人となり、当時至難であった地租改正を担当しました。

明治二十三年（一八九〇）第一回衆議院議員選挙に香川第一区から立候補して当選し、以来八回（本県から連続七回、東京から一回当選）を数えます。その傍ら実業界に入り、東京馬車鉄道会社副社長として活躍しました。四十九歳で第二代東京商業会

議所会頭となり、東京証券取引所設立や東京市会議長などを歴任しました。  
明治四十二年、米国視察団を結成したときに団長を務めるなど、実業家として産業の発展にも尽くしました。

【参考文献】

現地説明板

弘憲寺ホームページ

「高松の文化財」平成四年十一月一日発行

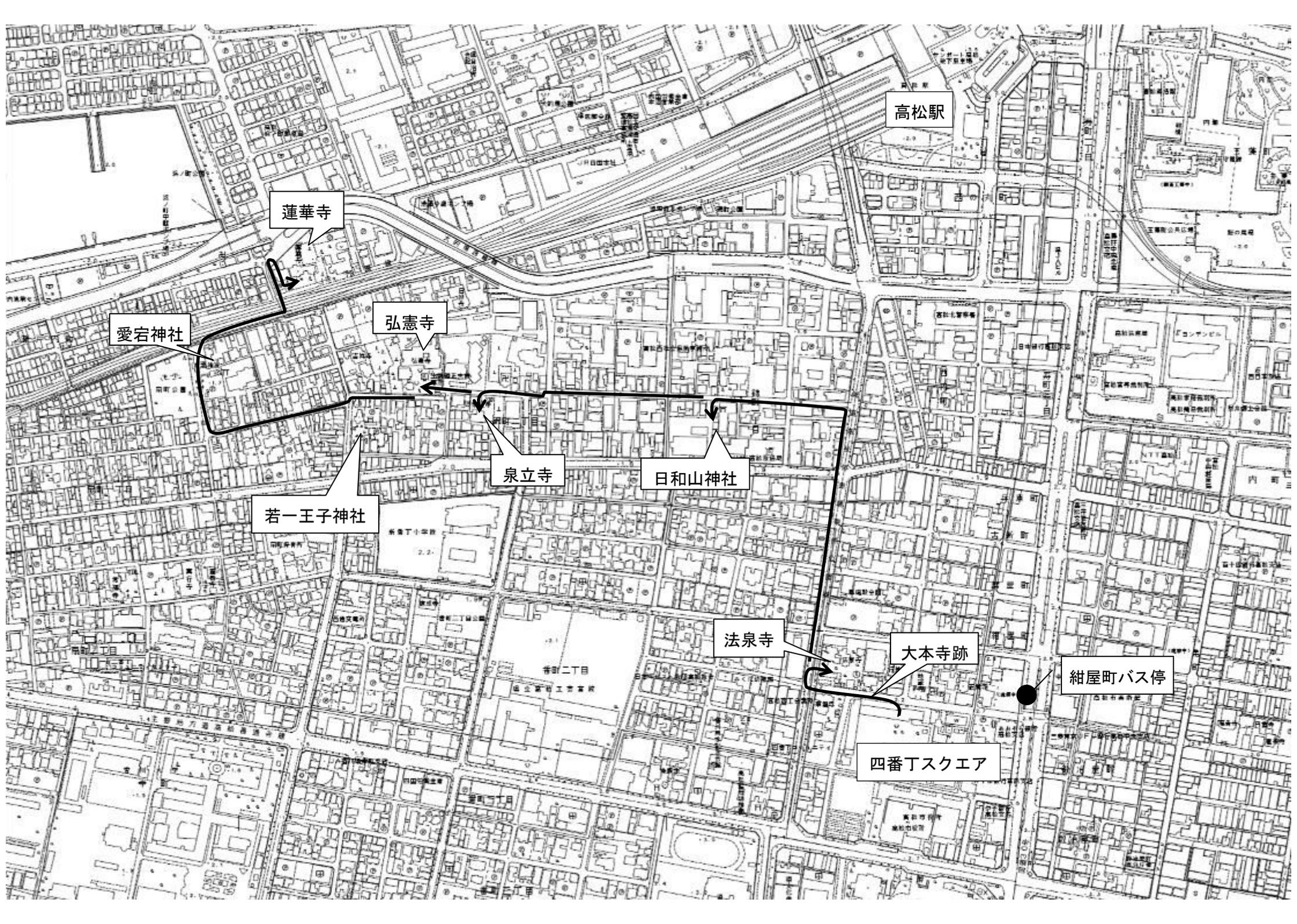
高松市歴史民俗協会・高松市文化財保護協会

「香川県人物・人名事典」昭和六十年六月三十日発行 (株)四国新聞社

「新修高松市史Ⅱ」昭和四十一年二月一五日発行 高松市役所

「高松 まちある記」平成二十年三月三十一日発行

高松松平藩歴史・文化探訪推進協議会



高松駅

蓮華寺

愛宕神社

弘憲寺

若一王子神社

泉立寺

日和山神社

法泉寺

大本寺跡

紺屋町バス停

四番丁スクエア

9月28日（日） JR高松駅からの復路

◆ JR予讃線（下り）

12：27 発、12：52 発

◆ JR高德線（下り）

11：59 発、12：50 発



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 長尾寺周辺を訪ねる

とき 平成26年10月26日（日）

9：30～12：00頃

集合場所 ことでん長尾駅

講師 三好 成其さん

（さぬき市文化財保護協会会長）

☆広報「たかまつ」10月15日号に開催案内を掲載します  
ますので、ご覧ください。

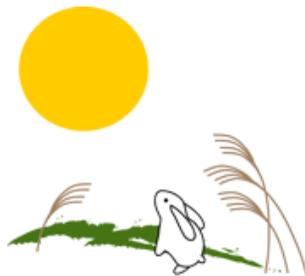
☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課  
（TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）  
でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」で  
す。）

★次回の交通案内★

◆ことでん長尾線

（高松築港駅）		（瓦町駅）		（長尾駅）
8：20 発	→	8：25 発	→	9：00 着
8：43 発	→	8：49 発	→	9：24 着

「ふるさと探訪」に  
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、  
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。